

令和5年度夏秋どりいちご生産者研修会を開催しました

夏秋どりいちご栽培の生産を振り返り、来年度へ活かすため、令和5年度夏秋どりいちご生産者研修会を2023年12月20日に現地（小海町役場）とWebのハイブリッドにより開催しました。

南佐久地域の夏秋どりいちご栽培では、アザミウマ類による果実被害・収量減少が問題となっています。この背景には、アザミウマ類の薬剤抵抗性の発達により、殺虫剤による防除が困難となっている状況があります。薬剤抵抗性の発達した害虫に対しては、天敵製剤の利用が効果的です。そこで、令和5年度に佐久農業農村支援センターでは、県の「環境にやさしい農業技術現地実証事業」を活用し、天敵製剤「スワルスキーカブリダニ」によるアザミウマ類防除の実証を南牧村生産者ほ場で実施し、現地検討会や生産者研修会を実施しました。

本研修会では、天敵製剤の利用について重点をおき、県野菜花き試験場 岩田研究員やJA全農長野高原審議役から天敵製剤の利用法について講義をいただきました。佐久農業農村支援センターからは南牧村で実施した実証の結果報告を行い、令和5年度の活動をまとめた南佐久版の天敵導入マニュアルを生産者へ配布し、説明を行いました。

佐久地域外からの生産者も含め74名の出席があり、アザミウマ類防除や天敵利用について関心の高さが伺われました。引き続き、生産者・関係者と連携し、夏秋どりいちご栽培の課題解決に向け取り組んでまいります。

（マニュアル）南佐久地域における天敵を活用した夏秋どりいちごにおけるアザミウマ類防除

URL：<https://www.pref.nagano.lg.jp/sakuchi/nosei-aec/joho/gijutsu/documents/ichigotennteki.pdf>



生産者研修会をハイブリッド形式で開催（12月20日）



南牧村展示ほ場で現地検討会を開催（7月5日）